

# 非財務情報・企業情報

## 第三者意見



東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授, 東京大学URA

### 中西 もも氏

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了、博士(農学)。Hospital for Sick Children(トロント) Post-doctoral fellow、科学技術振興機構 産学連携展開部 調査員を経て、2016年より東京大学 大学院農学生命科学研究科 特任助教、2017年12月より同 特任講師、2021年4月より現職。東京大学One Earth Guardians育成プログラムにおいて、立ち上げ当初よりアドミニストレーターを務める。

地球が生み出せる資源は有限である。人間の活動による消費の勢いはそれを上回っており、1年間に地球が再生産する資源量を人間が消費しつくしてしまうタイミングを表す「アース・オーバーシュート・デー<sup>\*</sup>」は、2023年は8月2日とされている。世界中の人が日本と同じ暮らしをしていたならば、この日付は5月6日となる。つまり、半年と待たず資源を“前借り”する生活に入っているのが今の日本の状況であり、サーキュラーエコノミーを一刻も早く実現しなければ、私たちが地球上で生活をつづけるのが困難であることは想像に難くないであろう。

現代社会において、産業廃棄物の処理プロセスをいかに行うかは資源循環における要である。上記の収支を考えれば、不要な“ゴミ”として捨てていく余裕はもはやないはずで、リサイクル企業として廃棄物を資源と捉えることを掲げ正面から向き合うダイセキは、社会がサーキュラーエコノミーへ向かうための旗振り役の立ち位置にあるのではないかと思う。

東京大学大学院農学生命科学研究科・農学部で2017年に始まったOne Earth Guardians育成プログラム(以下、OEGs)は、100年後の地球で人を含めたあらゆる生物が共存共生する未来のために、行動を起こせる科学者たち「One Earth Guardians(地球医)」の育成を目指している。大学とさまざまな組織や個人とが連携し、このような人材の育成を共に進めることを通じて、産業界とアカデミアが協働して社会課題や環境課題の解決に取り組むための仕組みともなっている。

ダイセキは2022年からOEGsの活動に本格的に参画された。OEGsでは、カリキュラムの中核的活動として、社会とのかかわりの中で課題を見出す力や解決する力を育む「実学研修」を実施している。同社との実学研修では、サーキュラーエコノミーの実現に向けた環境課題の解決とビジネス性の両立をテーマに、同社のフィールドと知見を提供いただき、半年程度の議論やリサーチを経て学生らが提案を行った。参加学生たちは、大学での研究活動とは異なる進め方に時に戸惑いながらも、ビジネスとして成立させるために必要となる観点で

実体験として学ぶこととなった。このアプローチは、大学における教育・研究環境だけでは得難いものであると同時に、社会を巻き込んでアクションを起こすために重要な力となる。また、身につけてきた研究知見が現場の課題解決につながる可能性に触れたことは、今後のキャリアの選択肢を広げ、勇気づけられる経験ともなったのではないかと推察する。科学者としての視点や素養を持ちながら、さまざまな立場で持続可能な社会の実現に貢献する人材を育むための一歩であり、今後への手応えを感じている。

さて、サーキュラーエコノミーに並んで、バイオテクノロジーや生物資源を活用し、同時に生物圏に負荷をかけない経済活動を示す「バイオエコノミー」という概念がある。両者は重なる部分も多いが、欧米ではこれらが融合した「サーキュラー・バイオエコノミー」が重要視されてきている。

筆者が身を置く農学は、生物に学び、生物の力を借りることを通じて自然資源を活用するための学問であるが、循環的な資源利用の実現は農学にとっても喫緊の課題である。学術的知見を実際の課題解決につなげるためには、産業界におけるプレイヤーとの連携が肝要であり、産業廃棄物からのリサイクルを牽引するダイセキとの協働には大きな可能性を感じるとともに、手を携えることで我々に何ができるのか、あらためて身の引き締まる思いである。

「静脈産業」とは言い得て妙な表現だ。動物は体液を身体に循環させて生命機能を維持しており、血液の流れが止まったり、多量に体外に出てしまったりすれば生きてゆくことができない。どちらかといえば血液を各臓器に送り届ける動脈のほうが認識されやすい存在かもしれないが、静脈によって血流が再び心臓に還ってこそ循環器である。これを社会・経済活動に置き換えてみても、静脈産業たるダイセキが果たすべき役割は大きい。地球を複雑かつ大きなひとつの生命体と考えるならば、今はおよそ健康的とはいえない状況であり、静脈の流れから息を吹き返すことに期待したい。

<sup>\*</sup>アース・オーバーシュート・デーについて詳しくは以下をご覧ください。

グローバル・フットプリント・ネットワーク <https://www.overshootday.org/newsroom/past-earth-overshoot-days/>